

# 学校通信 Tomorrow 第5号 2025, 10, 21

朝夕もだいぶ涼しくなってきたけど、日中 30 度越えの毎日。興南祭、中間テスト、遠足も終わり、次は合唱コンクールか、、、忙しいくらいがちょうどいい、、、なんてことを考えてます。こんにちは、毎月の学校通信。今回は、ノーベル賞と遠足でいってみたいと思います。



## ノーベル賞

(英語: Nobel Prize) は、ダイナマイトの発明者として知られるアルフレッド・ノーベルの遺言に従って創設され、物理学、化学、生理学・医学、文学、平和および経済学の「5分野+1分野」で人類に対して大きな貢献をした人物に贈られる賞です。どうして、芸術部門や数学賞はないのかな？不思議ですね。その分野に興味が無かったとか、大切な人を数学者にとられたとか、諸説あるみたい。たくさん調べてみてください！

今年のノーベル賞の発表の中で、生理学・医学賞坂口先生と化学賞の北川先生が日本から選出されいろいろなメッセージや座右の銘をお話してますね。少し紹介すると、

坂口 志文先生の受賞は、「過剰な免疫反応を抑える制御性T細胞（Tレグ）」の発見。受賞の会見でも「自分で興味があることを大切にしていくと、だんだん形がはっきりしていき、気がついたら面白い境地に達している。そういうことが起きれば、どんな分野でも面白い」という言葉を、これからの研究者に贈ってましたね。この細胞の存在は、最初、誰にも支持されず、とても苦労したみたい。どうして免疫が自分を攻撃するのか？そういう疑問から研究が始まったみたい、執念の研究だね。

北川 進先生の授賞理由は「金属有機構造体の開発」。子供たちに伝えたい言葉として、細菌学の父と呼ばれている※ルイ・パスツール（フランス）の言葉をあげていました。

「子供たちには難しいかもしれないけど、ルイ・パスツールが

“le hasard ne favorise que les esprits prepares”（フランス語）“Chance favors the prepared mind”（英語）『幸運は準備された心にのみ宿る（日本語）』という名言を残しています。私の今の流れをみたときに、いい先生、友達、学会での付き合いに恵まれた。それは準備された心なんです。ある日突然宝くじを引いて当たったわけじゃない。いろんな経験を大切にしていってそれが将来花開く、そう言いたいですね」※無用の用を実感したこともお話されたね。

※パスツールは、自然発生説の否定やコッホと並んで予防接種、牛乳で利用される低温殺菌法（パスチャライゼーション）の開発に寄与した誰でも知っている有名な科学者ですね。

※無用の用 一目見た時は役に立たないと思っていたものが、重要な働きをすること。中国の古典『莊子』に登場する表現で、一見役に立たないと思われているものが、実は大切な働きをしていることを意味します。車軸や容器の内側には何もなかったことが重要ってことでもありますね。大事なことは、視点を変えてみることであったりするのかな？ 実に興味深い、、、



10月10日(金)は、遠足でした。1年生はおきなわワールド、2年生は東南植物楽園、3年生は沖縄こどもの国に行きました。各学年の遠足の様子を紹介します。来年はどこになるのかな？



鍾乳洞は涼しくて最高！



興南Tシャツ似合ってるよ！



いつの時代もポーズはピース♡なんだよねー、楽しそう！



次は、合唱コンクール。放課後の校舎に合唱の練習が聞こえると、んー、学校だなあってしみじみ感じますよ。10月28日(火)の午後、第1体育館での開催です。保護者の方も是非、来校ください！！